

若年層における投票率向上について

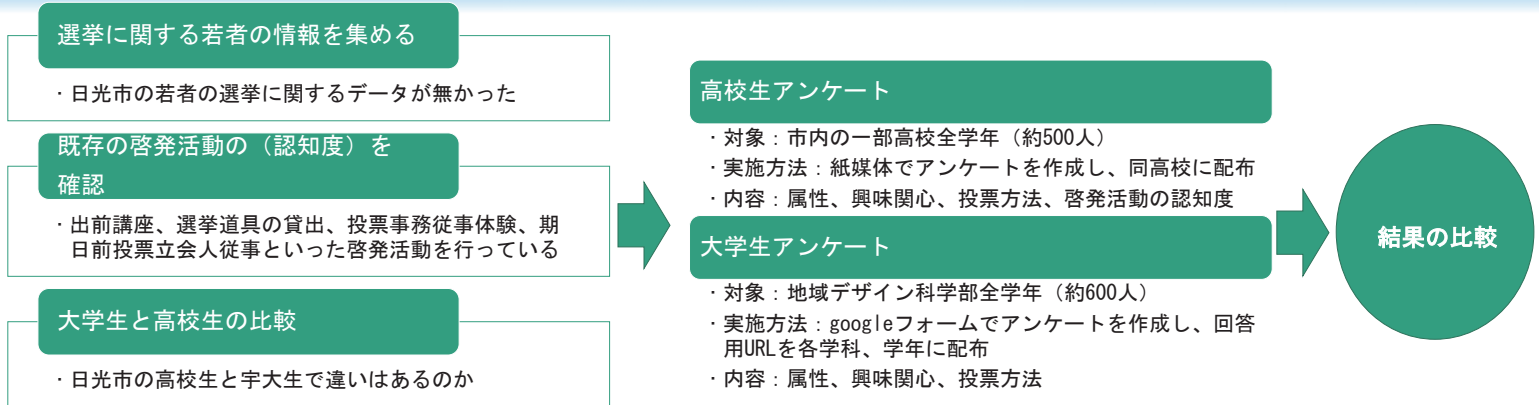
地域名：日光市
地域パートナー名：日光市役所

11班 コミュニティデザイン学科 阿藤結衣 齊藤唯人
建築デザイン学科 飯村昂裕 愛川弘人
社会基盤デザイン学科 草野日向子

背景

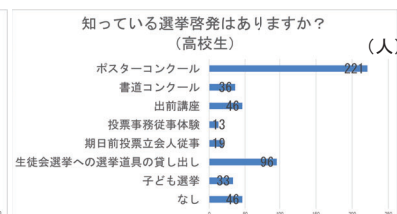
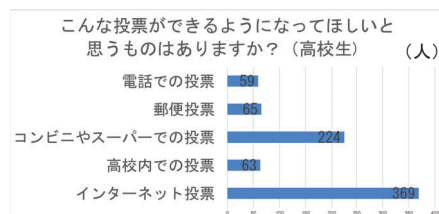
栃木県の年代別投票状況を見てみると18歳、19歳の投票率は20代より高い傾向にある。一方で20代の投票率が最も低い。これらの要因として住民票を移していない等の外的要因も指摘されているが、一般的に社会と接点が少なく、政治や選挙に対する意識が低いことや、選挙権年齢に達する時期に選挙そのものの意義や期日前投票、不在者投票制度等を含めた投票制度全体が認識されていないことが原因として捉えられるとしている。しかし、日光市との座談会を通して、それらが日光市にも同様に当てはまることを示すデータがないことが分かった。

目的及び方法



分析結果

- 政治への興味・関心について**
高校生全体（n=515）で見ると「興味・関心がある」と回答した人は40%と低い割合であった。一方で3年生で「ある」と回答した割合は63%、1・2年生では両者ともに37%と3年生とそれ以外で大きな差があることが分かった。大学生全体では（n=72）、「興味・関心がある」と回答した人が33%と高校生より低い割合であった。
「興味・関心がない」と回答した人のうち、その理由として高校生、大学生同じく「政治自体に興味がない」と回答した人数が最も多く高校生で74%、大学生で58%であった。
- 実施してほしい投票方法（複数回答可）**
インターネット投票を望む人が最も多く369人であった（n=524）。大学生についても同様の傾向が見られインターネット投票を望む声が64人から挙がった（n=72）。
- 既存の啓発活動について（複数回答可）**
国が主体で行っているポスターコンクールより市が主体で行っている書道コンクールの認知度が低かった（n=524）。
- 不在者投票制度について**
不在者投票制度について全体で「知っている」と回答した人は12%、「聞いたことがあるが詳しくは分からない」と回答した人は39%と少なかった。この傾向はどの学年でも変わらなかった。大学生（n=72）についても「知っている」と回答した人は32%、「聞いたことがあるが詳しくは分からない」と回答した人は40%と「知っている」と回答した人が増えたものの、全体的な認知度は低いことが分かった。
- 期日前投票制度について**
期日前投票の認知度を大学生を対象に調査をした（n=72）。「知っている」と回答した人が80%、「聞いたことがあるが詳しくは分からない」と回答した人が18%と期日前投票に比べ、認知度がとても高いことが分かった。
- 自由記述より**
1,2年生からは選挙の仕組み、用語に関する疑問が多く寄せられた。一方、3年生からは議員に対する疑問、不満、投票したいと思う人がいないといった意見が寄せられた。



提案

事業名	高校3年生向け選挙ワークショップ（内容一部抜粋）
テーマ	自分が行きたくなるような選挙を考えよう
目標	・選挙の実態や課題について学ぶ ・選挙に行きたくなるような仕組みや改善点を考える ・選挙管理委員会と協力して出た意見の実現を目指す
対象者	日光市内の高校に通う3年生
支援者	日光市選挙管理委員会及び宇都宮大学3年生（5人）
事業名	高校1・2年生向け選挙ワークショップ（内容一部抜粋）
テーマ	市長になったら何がしたい
目標	・選挙の仕組みや方法について学ぶ ・話し合いや模擬投票を通して、市政や選挙への関心を高める
対象者	日光市内の高校に通う1・2年生
支援者	日光市選挙管理委員会及び宇都宮大学3年生（5人）



表1 2. 実施してほしい投票方法について

表2 3. 既存の啓発活動について